

10月22日(火・祝)まで

「殿様の本棚-それぞれの教養と趣味-」

彦根藩井伊家の当主たちは、どんなことに関心を持ち、どんな本を読んでいたのか。11代直中(ななおか)、12代直亮(ななおき)、13代直弼(なのおすけ)の3代の当主の蔵書を通じて、それぞれの個性を浮き彫りにします。

10月25日(金)~11月24日(日)

「井伊家の茶の湯-伝来茶道具をめぐる10の物語-」

江戸時代、茶の湯は武家に必須のたしなみとして重んじられ、大名家では、家格にふさわしい茶道具が多く収集されました。本展では、井伊家2代直孝(なおたか)が徳川家康から拝領した名物茶入(めいぶつちやいれ)をはじめとする、井伊家伝来の茶道具の名品を、エピソードとともに紹介します。



▶大名物 宮王肩衝茶入

▶ギャラリートーク

10月26日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30  
事前申込:不要 場所:展示室1 ※観覧料が必要

▶関連講座「10の物語でひもとく井伊家の茶の湯」

11月9日(土) 14:00~15:30  
当日受付(先着60人) 場所:講堂 ※資料代(100円)が必要

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。

ほんものとの出会い

11月24日(日)まで

金梨地稲穂に雁文蒔絵鞍・鏡

▶金梨地稲穂に雁文蒔絵鞍



井伊家14代の直憲(なのおり)が、元治元年(1864)に徳川家茂(いえもち)から拝領した鞍と鏡。たわわに実った稲穂とそれを狙う雁という秋の情景が、高蒔絵(たかまきえ)をふんだんに用いて表されています。

■10月23日(水)~同24日(木)は、展示替えのため一部休室します。

常設展示の名品

チケット情報

ひこね市文化プラザ

12月8日(日) 14:30 エコーホール

心のストレッチ~柔らかな心で生きてみませんか~

【10月5日(土) 9:00~予約開始】  
一般 1,800円、中学生以下 900円  
【発売中】友の会 1,500円  
友の会・中学生以下 600円 ※3歳以上有料。2歳以下膝上鑑賞無料。

テレビアニメ「それいけ!アンパンマン」のバタコさんの声でおなじみの声優であり、歌手・脚本家の佐久間レイがお届けする心温まる講演会。ピアニスト・佐田詠夢の演奏と共に歌と朗読劇でお楽しみいただけます。

第12回直弼杯将棋大会 出場者募集!

【日時】11月24日(日) 10:00(受付9:30) (クラス・定員)級・段に応じた一般の部4クラス(A:3段以上と希望者、B:2段と初段、C:1級と2級、D:3級以下)、小学生以下の部2クラス(E:5級以下、F:10級以下【初心者】)、合計120人(先着順)(アマチュアに限る。小学生以下でも一般の部に申込可。A・E以外のクラスで、過去の大会での優勝・準優勝者は、同一クラスでの参加は不可)  
【競技形式】予選は各クラスによるリーグ戦(基本4人)を行い、予選通過者による決勝トーナメントを行います(詳細は当日説明)。(場所)彦根商工会議所(中央町)4階大ホール(費用)一般1,000円、中学生以下500円(申込期間)10月8日(火)~同31日(休) (必着)【申込・問い合わせ先】ひこね市文化プラザ直弼杯将棋大会実行委員会事務局 (〒522-0055 彦根市野瀬町187-4) ※はがき①住所②氏名③フリガナ④年齢(小・中学生は学校名・学年)⑤電話番号⑥参加クラスを書いてお申し込みください(はがき1枚につき申込者は1人)。

令和2年 2月  
プラザフェスティバル2020  
公演日程が決定しましたのでお知らせいたします。

2月8日(土) 演劇部門  
同9日(日) バレエ部門  
同15日(土) チャレンジ部門  
同16日(日) 舞踊部門  
同22日(土) クラシック部門  
同23日(日) 邦舞・邦楽部門

※申込受付は11月1日(金)~を予定しています。  
※今年度から、児童劇部門が演劇部門に変更になりました。

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)  
チケットはインターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

10月の休館日 7日(月)、15日(火)、21日(日)、28日(日)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取り扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。  
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

◎表記の価格は全て税込価格です。

◎入場制限のある公演は託児サービスを実施します(子ども1人1,000円)。各ホールまで事前予約が必要です。

みずほ文化センター

12月7日(土) 15:00 多目的ホール

滋賀県アートコラボレーション事業  
Black Bottom Brass Band with StarLights

スペシャルゲスト Bro.TOM を迎えて



【指定】【発売中】

【前売】一般 3,000円、高校生以下 2,000円  
【当日】一般 3,500円、高校生以下 2,200円

※未就学児は入場いただけません。  
※託児サービスがあります(有料/要予約)。

見る人みんなを笑顔にするブラック・ボトム・ブラス・バンドが彦根にやってくる!さらにエンターテインメントボーカルグループ StarLights に加え、ブラザートムを迎えたコンサートを開催します!

申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00~17:00)

10月の休館日 1日(火)、8日(火)、15日(火)、22日(火・祝)、29日(火)

藩主が写し、読んだ本 — 写本の魅力 —

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

彦根藩主井伊家に伝来した書物(典籍)は、現在彦根城博物館に収められており、その数は約6千件に及びます。江戸時代は火事が多く、特に江戸の藩邸に収蔵していた典籍は、焼失したものも多いと考えられます。現存する書物の中には、藩校の蔵書も一部含まれていますが、大部分が井伊家当主とその一族の蔵書とみられます。

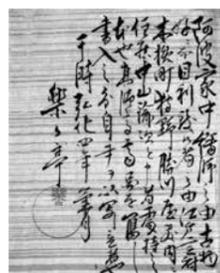
▶写真1

明珍甲之圖 (七)表紙(左)本文



▶写真2

同 奥書



誰の蔵書だったのか判明する手がかりの一つに、蔵書印があります。最も多く蔵書印が確認できるのは、12代の直亮(ななおき) (1794~1850)で、続いて11代直中(ななおか)、13代直弼(なのおすけ)の順です。蔵書印がなくとも、表紙のタイトルや筆跡や奥書の文章で蔵書と分かるものもあります。今回は、少々変わった直亮の蔵書をご紹介します。そのタイトルは「明珍甲之圖」(写真1)。(写真1)は、この1冊で完結しているという意味です。文字は直亮の直筆で、表紙を開くと、室町時代から続く甲冑師の明珍派の面類の図に、その作者や時代などを書き入れたものが約70ページにわたって繰り広げられています。そして、最終ページの奥書(写真2)では、直亮自身がこの書物の成り立ちについて説明しています。それによると、これは、徳島藩御用絵師で、古物好きで目利きでもある中山隼次という者の所持本を彦根藩士の高師高斎がもたらした。高斎が図を、直亮が文字を写したものだといえます。この奥書は、直亮のすることを示す「楽々亭」のサインと「楽々」の印で締められています。全て高斎に写させてもよいようなものを、わざわざ直亮自身が文字を写したのは、かなりその内容に関心があったということでしょう。それを裏付けるように、直亮が収集した古い甲冑師の図が今に伝わっています。そして、この書物には紙札がつけられ、やはり直亮の字で、書物帳にはまだこの書物のことを書き入れていない旨が記されています。これにより、当時「書物帳」という目録が存在していたことが明らかとなりました。

直亮は記録魔で、書物の入手経路や入手年、入手の動機など、いろいろな情報を私たちに提供してくれますが、伝来書物の多くは誰が使っていたのかさえ分かりません。江戸時代は出版文化が開花した時代です。当時の書物といつと、版木に文字を彫って印刷した版本が浮かびますが、ここで紹介したような、筆で書かれた写本も数多く作られました。蔵書も版本と写本が混然としていました。本屋の古本部門でも、写本は重要な品揃えのひとつだったといえます。版本は、装丁されて体裁が整った状態で世に出ますが、写本を作る場合、装丁に自分の好みを反映させることができます。具体的には、表紙の紙、タイトルを記す短冊型の紙(題箋)、綴じ糸などです。そのひとつひとつ、またはそれらの組み合わせに制作者や所蔵者のセンスが見え隠れします。本文の書体だけでなく、この装丁を眺めるのも写本の楽しみのひとつと言えます。

【彦根城博物館学芸員 高木文恵】